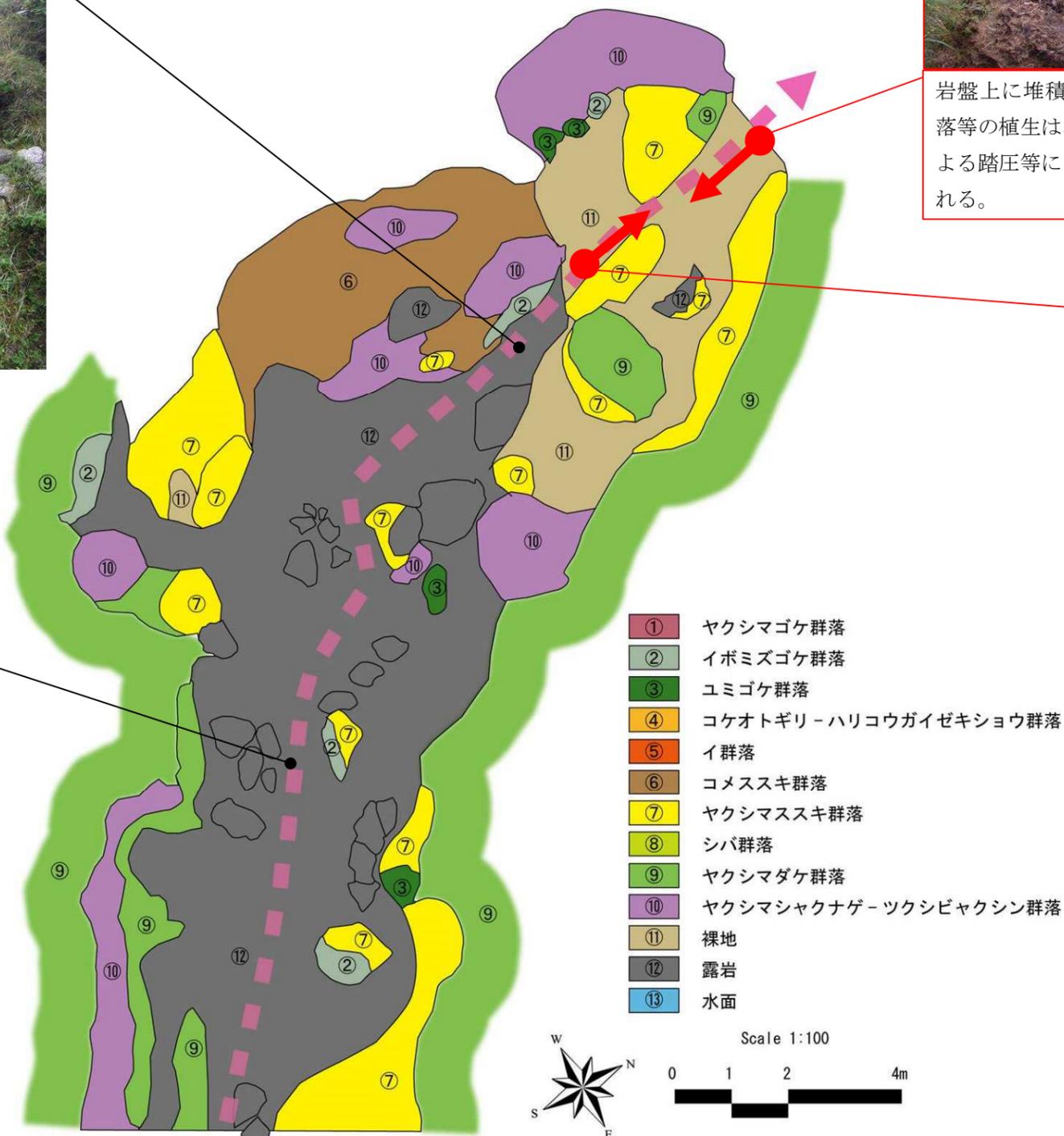


A1-6【投石平南】 H 2 2

- ・岩盤が広く露出した傾斜地の登山道である。
- ・岩盤の周囲は土壌で覆われており、比較的乾燥した周囲はヤクシマダケ群落で占められ、湧水などで湿潤な場所を中心にヤクシマススキ群落分布している。
- ・また、岩上にはヤクシマダケ-ツクシバクシン群落が生息し、岩上に土壌が薄く堆積している場所ではコメススキ群落で覆われている。
- ・コメススキ群落で覆われている立地は、岩盤上に風化砂礫が堆積した不安定な立地であり、今後、降雨時の流水等により面積が減少する可能性が想定される。



岩盤上に堆積した風化砂礫土上のヤクシマススキ群落等の植生は、降雨等に伴う流水の影響や、登山者による踏圧等により、植生が損なわれる可能性が想定される。



岩盤上に堆積した風化砂礫土上のヤクシマススキ群落等の植生は、降雨等に伴う流水の影響や、登山者による踏圧等により、植生が損なわれる可能性が想定される。

A1-6【投石平南】 H28

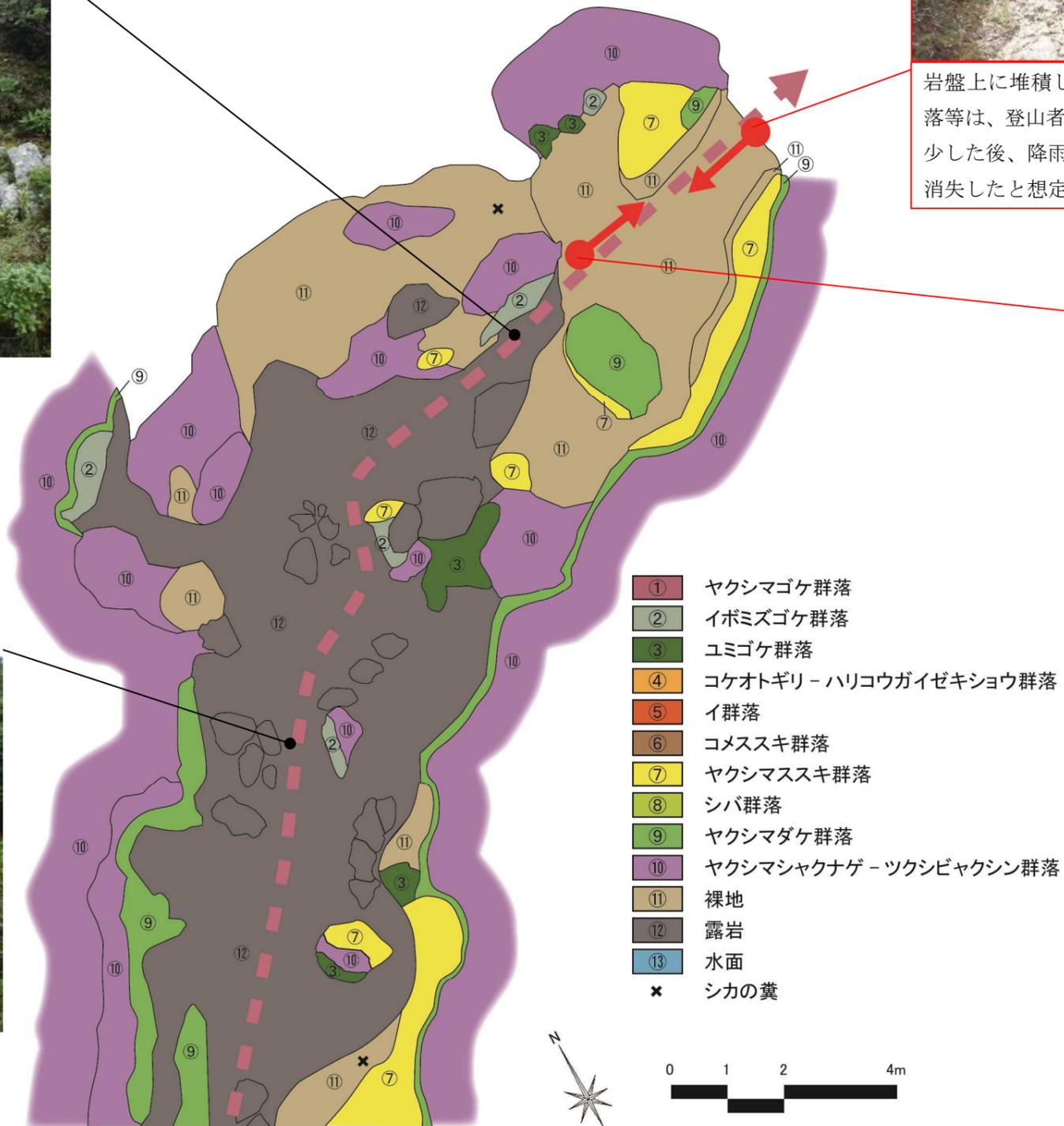
- ・岩盤が広く露出した傾斜地の登山道である。
- ・湧水などで湿潤な場所にあったヤクシマススキ群落は、シカの食害を受けて面積が大幅に減少している。
- ・ヤクシマススキ群落、コメススキ群落は登山者やシカの踏圧、シカの食害等により、衰退・裸地化している。
- ・登山者やシカの踏圧、シカの食害等により裸地化した土壌が、流水による侵食を受けて構造物と共に流出・消失した。
- ・ヤクシマシャクナゲ-ツクシビャクシン群落が生長し、他の群落に侵入しつつある。



岩盤上に堆積した風化砂礫土上のヤクシマススキ群落等は、登山者やシカの踏圧、シカの食害等により減少した後、降雨等に伴う流水の影響で地盤ごと流出・消失したと想定される。

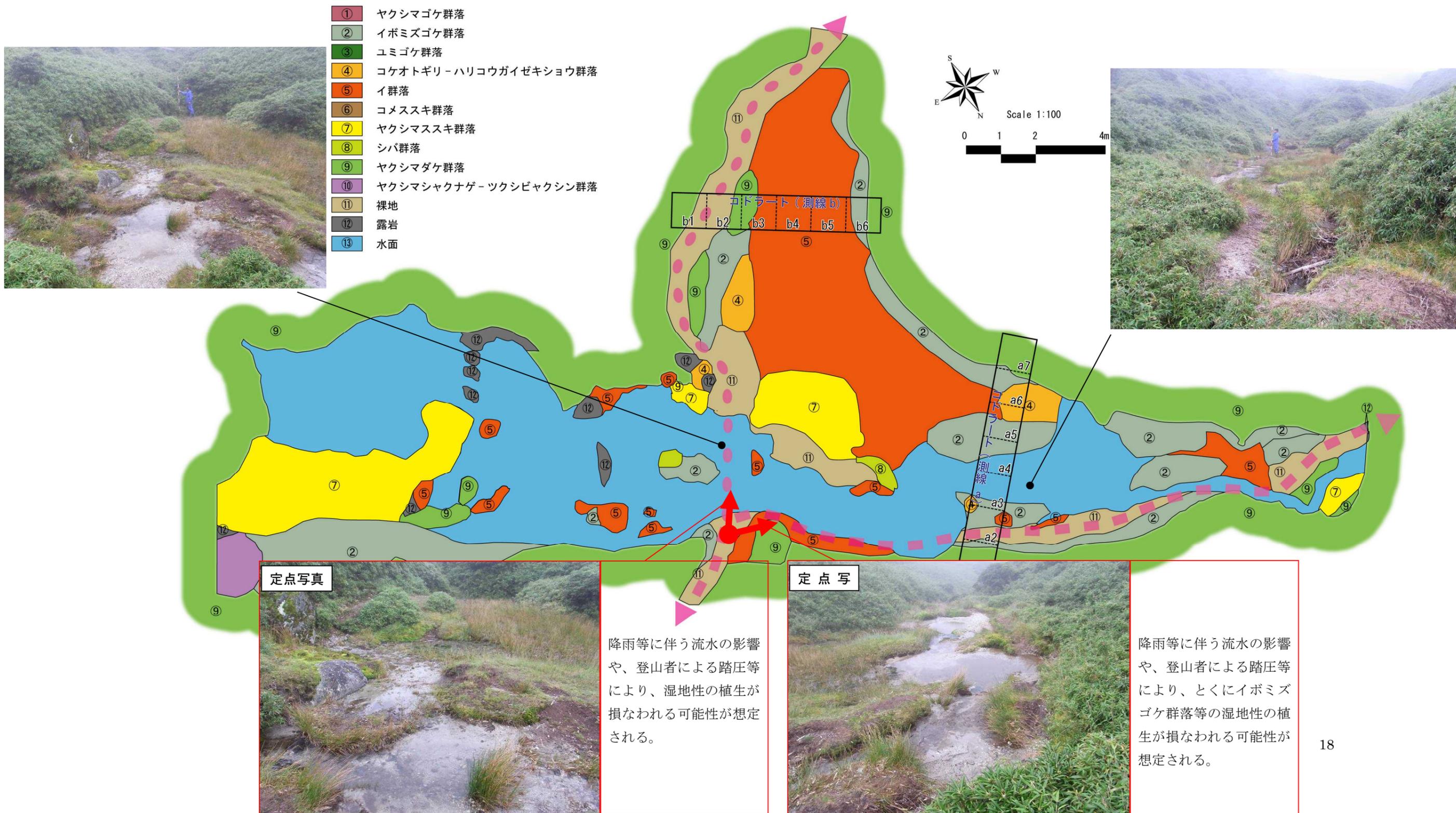


岩盤上に堆積した風化砂礫土上のヤクシマススキ群落等は、登山者やシカの踏圧、シカの食害等より減少した後、降雨等に伴う流水の影響で構造物と共に流出したと想定される。



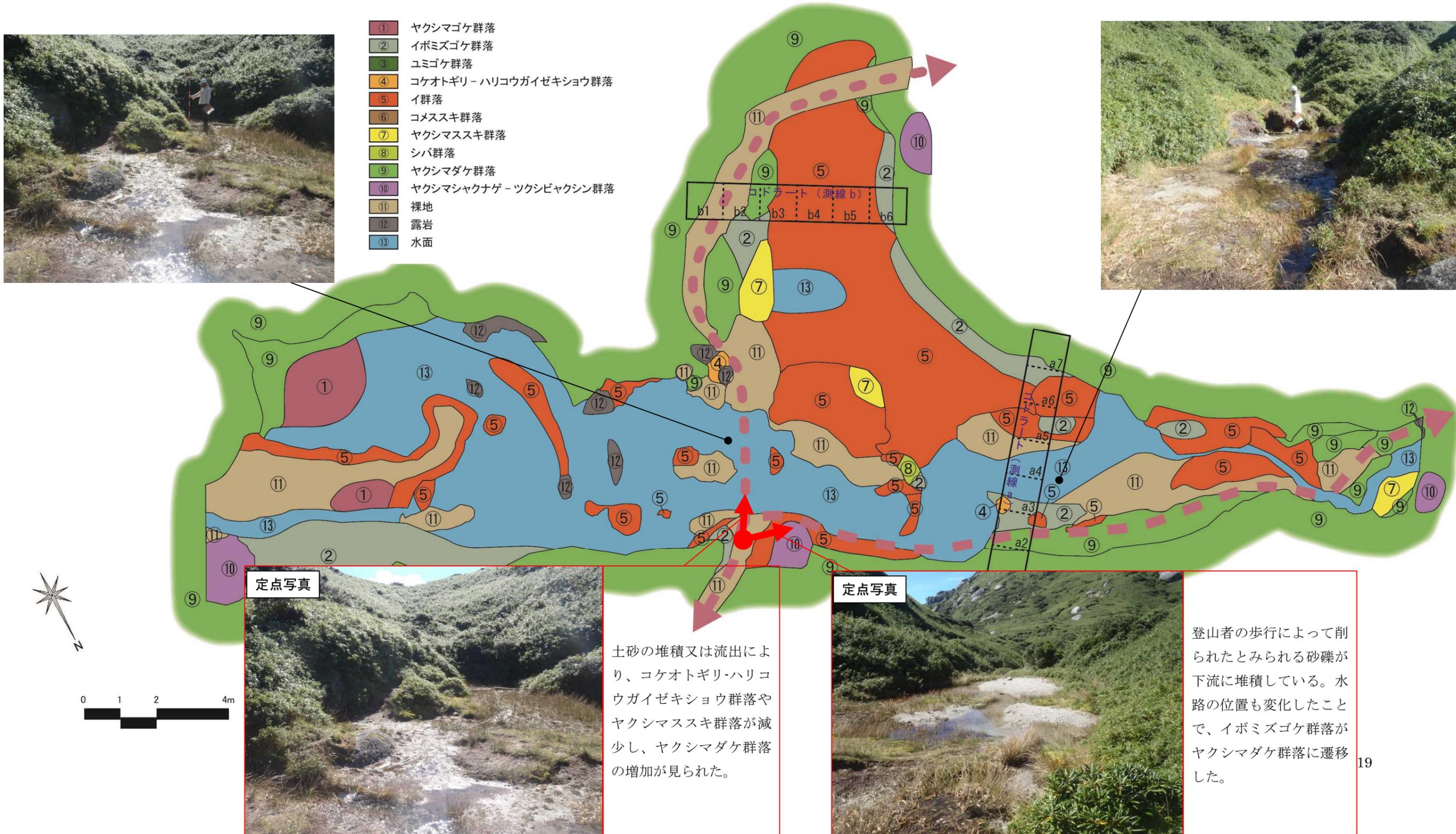
A2-1【永田岳東】 H 2 2

- ・なだらかな谷地形を横断する登山道であり、谷の中心部は削られた土壌の上を水が流れて水路となっており、水路から離れた緩傾斜地の一部は湿地化している。
- ・登山道が明確でないため、多くの登山者は主に水路に沿って水際を歩行していると想定される。
- ・水路の周囲や、斜面上部からの浸出水に涵養される場所を中心に、イボミズゴケ群落帯が分布している。
- ・風化砂礫が堆積している場所で、過湿気味の立地ではイ群落帯がまとまった群落を形成し、比高が比較的高いため湿潤な立地ではヤクシマススキ群落帯が分布している。
- ・登山者が歩行する場所は裸地になっており、水路に沿って分布するイボミズゴケ群落は、踏圧による影響が懸念される。



A2-1【永田岳東】 H28

- ・なだらかな谷地形を横断する登山道であり、谷の中心部は削られた土壌の上を水が流れて水路となっており、水路から離れた緩傾斜地の一部は湿地化している。
- ・登山道が明確でないため、多くの登山者は主に水路に沿って水際を歩行していると想定される。
- ・水路の周囲や、斜面上部からの浸出水に涵養される場所を中心に、イボミズゴケ群落帯が分布している。
- ・風化砂礫が堆積している場所で、過湿気味の立地ではイ群落が多量に形成し、ヤクシマススキ群落は小面積で点在する。
- ・登山者が歩行する場所は裸地になっており、外側はヤクシマダケ群落が増殖し、他の群落に侵入しつつある。



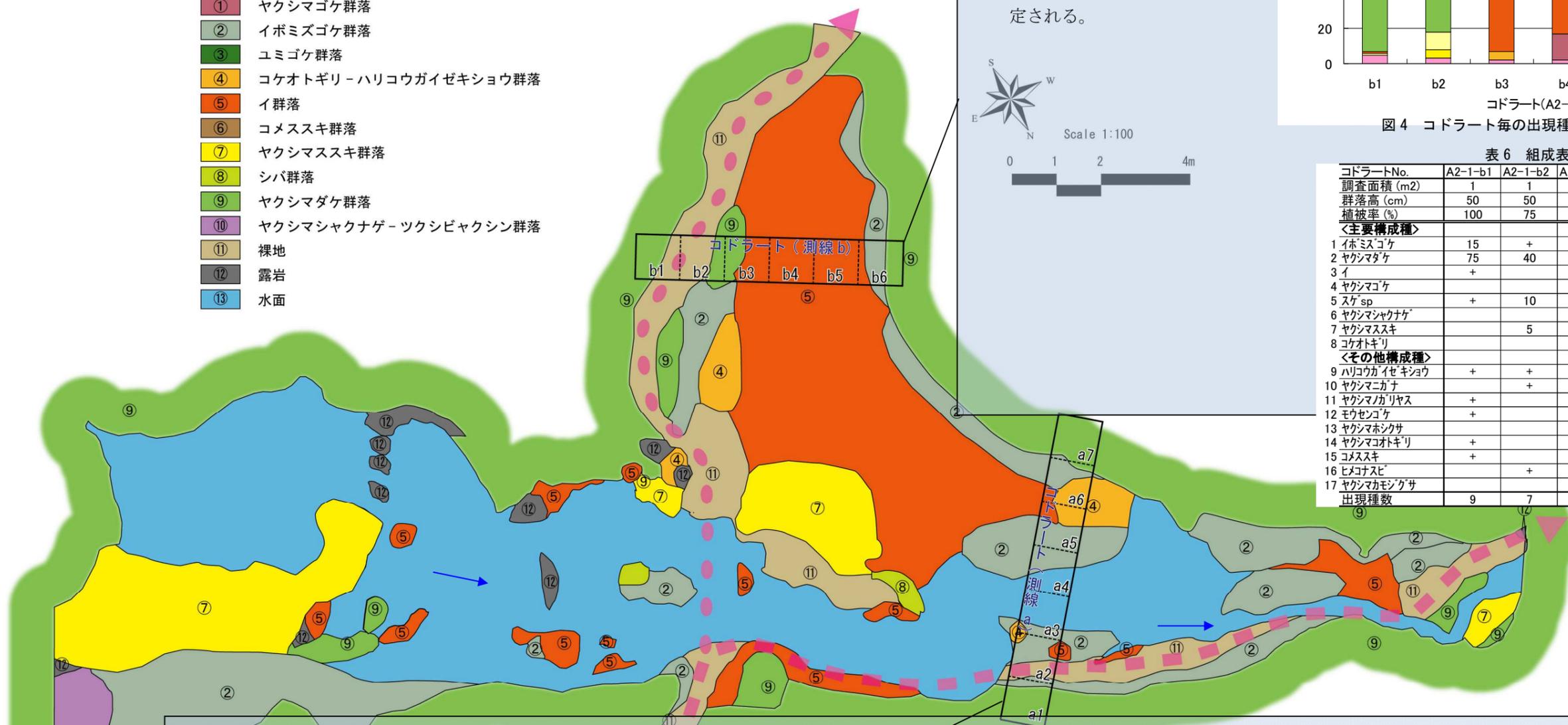
土砂の堆積又は流出により、コケオトギリ-ハリコウガイゼキショウ群落やヤクシマススキ群落が増減し、ヤクシマダケ群落の増加が見られた。



登山者の歩行によって削られたとみられる砂礫が下流に堆積している。水路の位置も変化したことで、イボミズゴケ群落がヤクシマダケ群落に遷移した。

H22

- ① ヤクシマゴケ群落
- ② イボミズゴケ群落
- ③ ユミゴケ群落
- ④ コケオトギリ-ハリコウガイゼキショウ群落
- ⑤ イ群落
- ⑥ コメススキ群落
- ⑦ ヤクシマススキ群落
- ⑧ シバ群落
- ⑨ ヤクシマダケ群落
- ⑩ ヤクシマシャクナゲ-ツクシビヤクシン群落
- ⑪ 裸地
- ⑫ 露岩
- ⑬ 水面



【A2-1】コドラート測線 b

- ・全体にヤクシマダケが比較的高い植被率で広範囲に生育し、中央の湿地を中心に、イが優占しており、調査地区を代表する植生である。
- ・湿地部分は、過失気味の立地環境であり、比較的安定していると想定される。

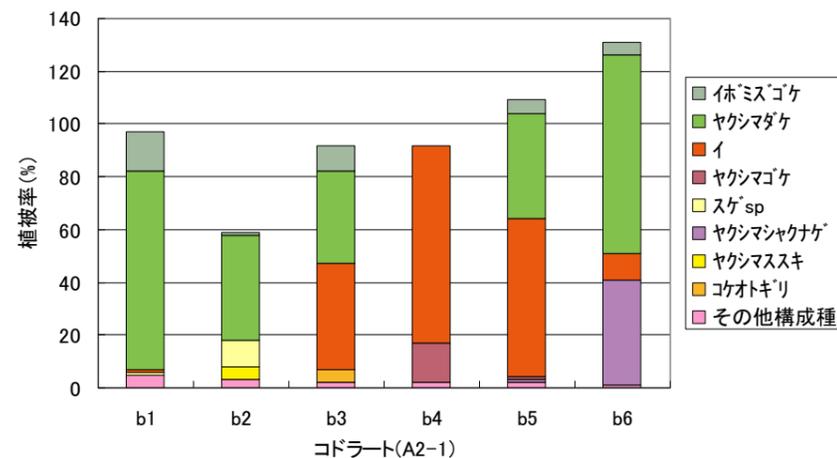


図4 コドラート毎の出現種の植被率 (A2-1 側線 b)

表6 組成表 (A2-1 側線 b)

コドラートNo.	A2-1-b1	A2-1-b2	A2-1-b3	A2-1-b4	A2-1-b5	A2-1-b6	出現回数
調査面積 (m2)	1	1	1	1	1	1	
群落高 (cm)	50	50	20	30	20	20	
植被率 (%)	100	75	60	60	95	40	
<主要構成種>							
1 イボミズゴケ	15	+	10		5	5	5
2 ヤクシマダケ	75	40	35		40	75	5
3 イ	+		40		60	10	5
4 ヤクシマゴケ				15	+		2
5 スゲ sp	+	10					2
6 ヤクシマシャクナゲ					+	40	2
7 ヤクシマススキ		5					1
8 コケオトギリ			5				1
<その他構成種>							
9 ハリコウガイゼキショウ	+	+	+	+	+		5
10 ヤクシマコナ		+			+		2
11 ヤクシマカリヤス	+		+				2
12 モウセンゴケ	+						1
13 ヤクシマホシサ				+			1
14 ヤクシマコトギリ	+						1
15 コメススキ	+						1
16 ヒメコナシ		+					1
17 ヤクシマカモシグサ						+	1
出現種数	9	7	6	4	7	5	

【A2-1】コドラート測線 a

- ・測線の両端はヤクシマダケが優占し、中央の湿地部ではイボミズゴケ、イ、ヤクシマススキが比較的高い植被率で生育している。
- ・左岸側の a2~a3 では、登山者の踏圧による影響を受けており、イボミズゴケの植被率が比較的小さく、イやヤクシマススキの植被率が比較的目的立っている。

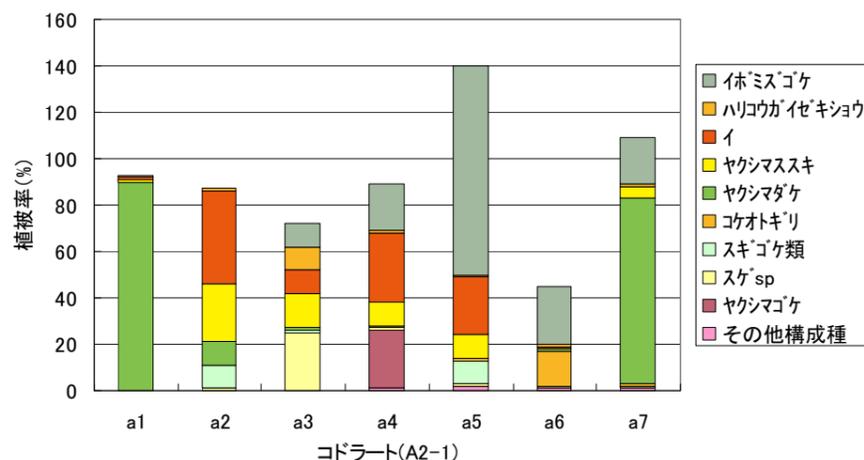
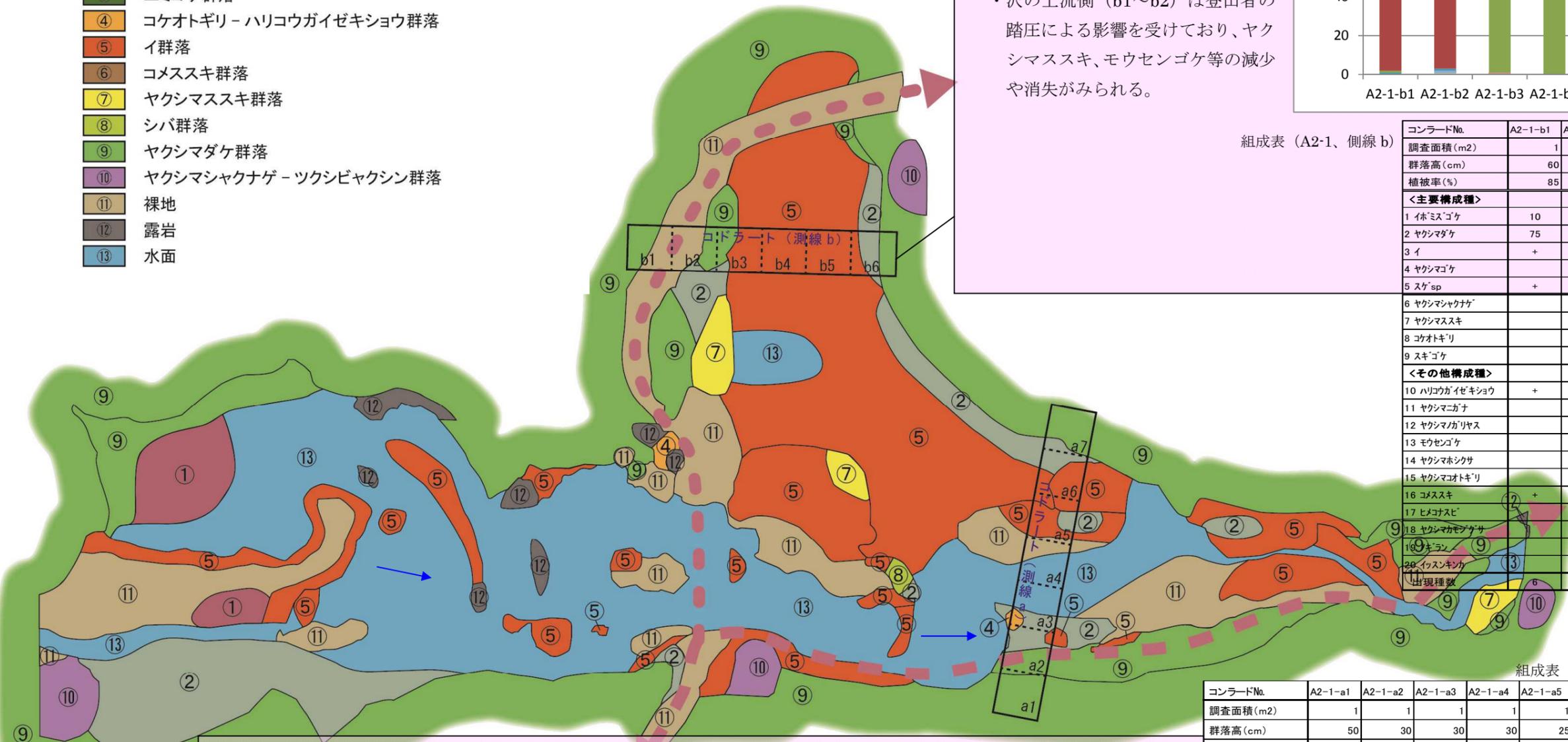


図3 コドラート毎の出現種の植被率 (A2-1 側線 a)

コドラートNo.	A2-1-a1	A2-1-a2	A2-1-a3	A2-1-a4	A2-1-a5	A2-1-a6	A2-1-a7	出現回数
調査面積 (m2)	1	1	1	1	1	1	1	
群落高 (cm)	50	50	20	30	20	20	50	
植被率 (%)	100	75	60	60	95	40	100	
<主要構成種>								
1 イボミズゴケ	+		10	20	90	25	20	6
2 ハリコウガイゼキショウ		+	10	+	+	+	+	6
3 イ	+	40	10	30	25	+		6
4 ヤクシマススキ	+	25	15	10	10		5	6
5 ヤクシマダケ	90	10	+			+	80	5
6 コケオトギリ				+	+	15	+	4
7 スキゴケ類		10	+		10		+	4
8 スゲ sp		+	25	+	+	+		5
9 ヤクシマゴケ				25				1
<その他構成種>								
10 ヒロハコメススキ				+				1
11 ヤクシマコナ					+			1
12 アセビ							+	1
13 コスシ					+	+		2
出現種数	4	6	7	8	9	7	7	

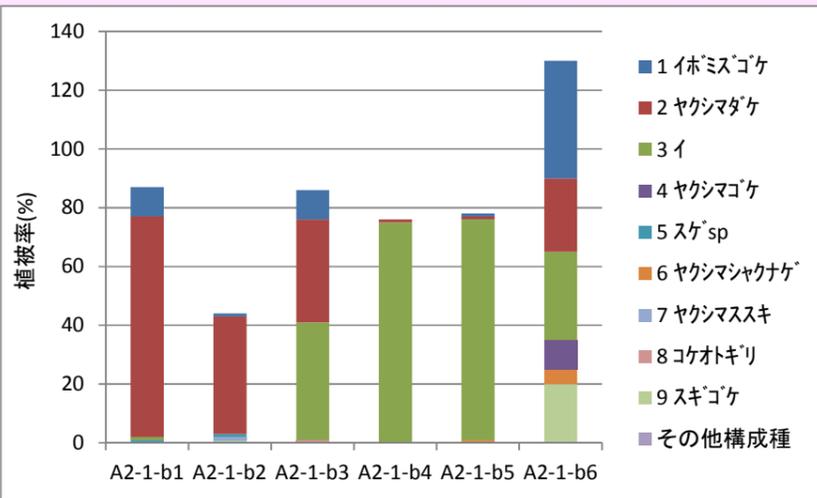
H28

- ① ヤクシマゴケ群落
- ② イボミズゴケ群落
- ③ ユミゴケ群落
- ④ コケオトギリ-ハリコウガイゼキショウ群落
- ⑤ イ群落
- ⑥ コメススキ群落
- ⑦ ヤクシマススキ群落
- ⑧ シバ群落
- ⑨ ヤクシマダケ群落
- ⑩ ヤクシマシャクナゲ-ツクシビヤクシン群落
- ⑪ 裸地
- ⑫ 露岩
- ⑬ 水面



【A2-1】コドラート測線 b

- ・測線の下流側 (b6) に湿地箇所が拡張した影響により、植被率が高かったヤクシマダケが b5~b6 でやや衰退し、イボミズゴケ、イに遷移している。中央の湿地を中心にイが優占している。
- ・沢の上流側 (b1~b2) は登山者の踏圧による影響を受けており、ヤクシマススキ、モウセンゴケ等の減少や消失がみられる。

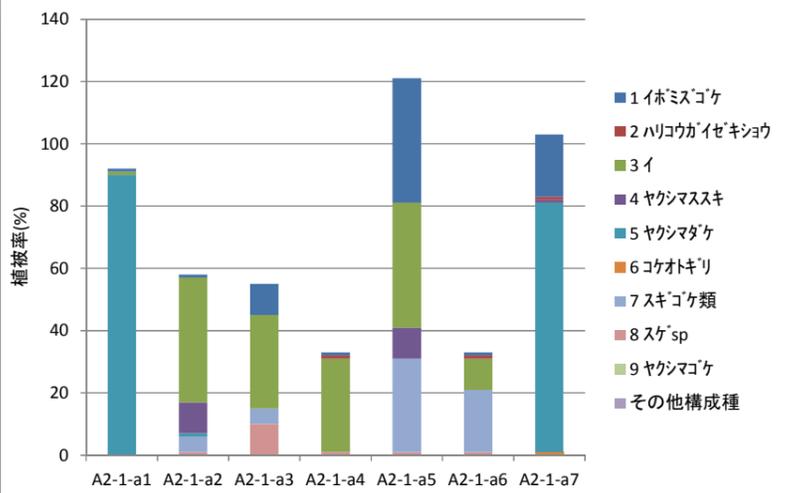


組成表 (A2-1、側線 b)

コンラートNo.	A2-1-b1	A2-1-b2	A2-1-b3	A2-1-b4	A2-1-b5	A2-1-b6	出
調査面積 (m2)	1	1	1	1	1	1	現
群落高 (cm)	60	30	40	40	40	20	回
植被率 (%)	85	50	75	75	75	95	数
<主要構成種>							
1 イボミズゴケ	10	+	10		+	40	5
2 ヤクシマダケ	75	40	35	+	+	25	6
3 イ	+		40	75	75	30	5
4 ヤクシマゴケ						10	1
5 スゲ sp	+	+					2
6 ヤクシマシャクナゲ					+	5	2
7 ヤクシマススキ		+					1
8 コケオトギリ			+				1
9 スキゴケ		+				20	2
<その他構成種>							
10 ハリコウガイゼキショウ	+	+	10	10	+		5
11 ヤクシマゴケ		+					1
12 ヤクシマゴケ				+			1
13 モウセンゴケ							0
14 ヤクシマホシクサ				+			1
15 ヤクシマコトギリ							0
16 コメススキ		+					2
17 ヒメコナシ							0
18 ヤクシマモツゲサ							0
19 キラン		+					1
20 イッセンカン						+	1
出現種数	9	6	4	5	7		

【A2-1】コドラート測線 a

- ・測線の両端 (a1, a7) はヤクシマダケが優占し、中央の湿地部ではイが比較的高い植被率で生育している。
- ・測線の中央から左岸側 (a4~a6) は土砂、砂礫が堆積した影響を受けており、イボミズゴケ、ハリコウガイゼキショウ、コケオトギリ等が減少または消失し、イに遷移している。砂礫の堆積により植生の回復が阻害され、植被率が減少している。



組成表 (A2-1、側線 a)

コンラートNo.	A2-1-a1	A2-1-a2	A2-1-a3	A2-1-a4	A2-1-a5	A2-1-a6	A2-1-a7	出
調査面積 (m2)	1	1	1	1	1	1	1	現
群落高 (cm)	50	30	30	30	25	5	50	回
植被率 (%)	100	75	40	40	80	20	90	数
<主要構成種>								
1 イボミズゴケ	+	+	10	+	40	+	20	7
2 ハリコウガイゼキショウ				+		+	+	3
3 イ	+	40	30	30	40	10		6
4 ヤクシマススキ		10			10		+	3
5 ヤクシマダケ	90	+					80	3
6 コケオトギリ							+	1
7 スキゴケ類		5	5		30	20		4
8 スゲ sp		+	10	+	+	+		5
9 ヤクシマゴケ								0
<その他構成種>								
10 ヒロハコメススキ				+				1
11 ヤクシマゴケ								0
12 アゼ								0
13 コクシ					+			1
14 コメススキ						+		1
出現種数	3	6	4	5	6	5	5	

